

令和 4(2022)年度
伊丹市環境基本計画(第 3 次)
年次報告書



環境に配慮した庁舎〔令和 4(2022)年度 11 月オープン〕

令和 5(2023)年 9 月
伊丹市

本書について

伊丹市では、「伊丹市環境基本計画(第3次)」(2021年3月策定)(以下、「本計画」という。)にて定めた、気候変動、循環型社会、自然共生・生物多様性、都市環境、人づくりといった5つの基本目標に基づき、各種事業や活動を展開することとしています。

伊丹市環境基本計画(第3次)年次報告書は本計画における目標の達成状況や各種事業及び活動の実施状況について整理をし、適宜、取組内容の改善を図ることを目的として毎年作成・公表するものです。

このたび、「伊丹市環境基本計画年次報告書(2022年度)」が、完成しましたので公表いたします。

目次

伊丹市環境基本計画(第3次)の施策体系…………… 1 ページ

進捗状況の点検結果

基本目標 1 気候変動に対応するまち……………	3 ページ
基本目標 2 資源が循環する環境に配慮したまち……………	5 ページ
基本目標 3 自然環境と共生し生物多様性が保全されるまち……………	7 ページ
基本目標 4 良質な都市空間の整備と生活環境が保全されるまち……………	9 ページ
基本目標 5 環境意識と協働の輪が広がるまち……………	11 ページ
参考指標の進捗状況……………	13 ページ

※ 資料編は、グリーン戦略室ホームページにてご覧いただけます。

伊丹市環境基本計画（第3次）の施策体系

環境の
将来像

基本目標（成果指標）

自然と都市機能が調和した快適でうるおいのあるまち

【気候変動】

気候変動に対応するまち



成果指標

	現状 (2019 年度)	目標 (2028 年度)
①本市の事務事業に伴う温室効果ガス排出量	24,619 t-CO ₂	22,505 t-CO ₂
②浸水対策達成率	83.83 %	84.26 %

【循環型社会】

資源が循環する環境に配慮したまち



成果指標

	現状 (2019 年度)	目標 (2028 年度)
①発生抑制率	4.9 %	10.9 %
②資源化率	17.5 %	18.6 %
③最終処分量（埋立量）	7,020 t	6,719 t

【自然共生・生物多様性】

自然環境と共生し生物多様性が
保全されるまち



成果指標

	現状 (2019 年度)	目標 (2028 年度)
①みどりに対する市民満足度	— %	80 %
②在来生物の種類数	188 種	193 種
③自然緑化活動等に参加している団体数・参加人数	125 団体、494 人	125 団体、700 人

【都市環境】

良質な都市空間の整備と生活環境が
保全されるまち



成果指標

	現状 (2019 年度)	目標 (2028 年度)
①環境基準達成率（水質（BOD））	100 %	100 %
②地域清掃活動支援件数	771 件	1,100 件
③景観に対する市民満足度	79.9 %	80 %
④交通ネットワークに対する市民満足度	72.4 %	73 %

【人づくり】

環境意識と協働の輪が広がるまち



成果指標

	現状 (2019 年度)	目標 (2028 年度)
①環境イベント・講座等に参加した人数	4,969 人	5,250 人
②緑化や自然保護活動に参加した市民の割合	— %	10 %

施策の方向性

事業

①気候変動の緩和策

- 行政の率先行動の推進
- 市民・事業者への活動促進
- 市営バス・自転車利用の推進

②気候変動の適応策
(重点プロジェクト)

- 異常気象による浸水対策及びヒートアイランド対策
- 熱中症・感染予防対策に関する普及啓発
- 災害時におけるエネルギー確保の検討

③廃棄物の発生抑制・再使用等の推進

- ごみの発生抑制・再使用の推進
- 適正分別・リサイクルの推進
- 事業者への3R推進
- プラスチックごみの発生抑制
- 適正処理の推進

④食品ロスの削減
(重点プロジェクト)

- 食品ロス削減の推進

⑤みどりの充実

- 魅力ある公園緑地づくり
- 身近なみどりの充実

⑥生物多様性の保全

- 生物多様性に関する正しい知識の普及
- 生物多様性の保全及び再生
- 野生生物の保全管理及び侵略的生物への対策

⑦生活環境の保全

- 監視・指導・啓発等の継続実施

⑧良質な都市空間と住環境の形成

- 環境美化活動の推進
- 環境に配慮した都市の形成
- 都市農業の推進
- 良好な景観誘導

⑨安全で快適な道路空間の整備

- 都市計画道路・自転車レーン等の整備
- 交通安全に関する普及啓発

⑩多様な主体が連携協力する体制の推進
(重点プロジェクト)

- パートナーシップの推進及び活動の場・機会の創出
- 環境と経済の共生

⑪環境教育・環境学習の推進

- 環境教育・環境学習の充実
- 環境情報の収集・提供

基本目標1

気候変動に対応するまち

■成果指標の進捗状況

成果指標	参考 (2019年度)	指標の 性質※	2022年度 実績	目標 (2028年度)
① 本市の事務事業に伴う温室効果ガス排出量	24,619 t-CO ₂	↓	24,666 t-CO ₂	22,505 t-CO ₂
② 浸水対策達成率	83.83%	↑	83.86%	84.26%

※指標の性質において、↑は実績値が目標値を上回ることが望ましい項目、→は実績値を維持することが望ましい項目、↓は実績値が目標値を下回ることが望ましい項目を意味する。

施策の方向性① 気候変動の緩和策

■2022年度の主な取組

Do

- ・2050年カーボンニュートラルの実現を目指し、伊丹市ゼロカーボンシティを宣言した。

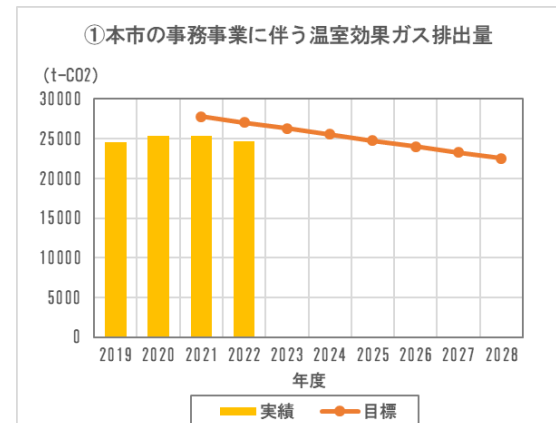


**Zero
Carbon city
Itami 2050**

- ・脱炭素社会の実現に向けたライフスタイルの変革のため、体験型環境啓発イベントの実施、環境啓発動画の放映、広報紙掲出、市庁舎への啓発パネルの掲示、太陽光パネル及び蓄電池設備の共同購入支援事業を実施し、COOL CHOICE を啓発した。

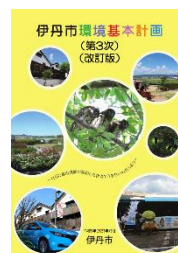


Check



①本市の事務事業に伴う温室効果ガス排出量は、省エネ・節電の取組を推進したものの、新型コロナウイルス感染症対策のための適切換気等の影響により、ほぼ横ばいで推移しているが、2022年度の単年度目標を達成した。

- ・「伊丹市環境基本計画（第3次）」及び「第4次伊丹市地球温暖化対策推進実行計画（事務事業編）」を改定・策定した。



■2023 年度以降の主な取組

Action

- ・新たに市内事業者向けの太陽光発電設備の共同調達支援事業を実施する。
- ・市内事業者向けに地球温暖化対策の取組を進めるための情報提供や活動促進事業を実施する。

施策の方向性② 気候変動の適応策（重点プロジェクト）

■2022 年度の主な取組

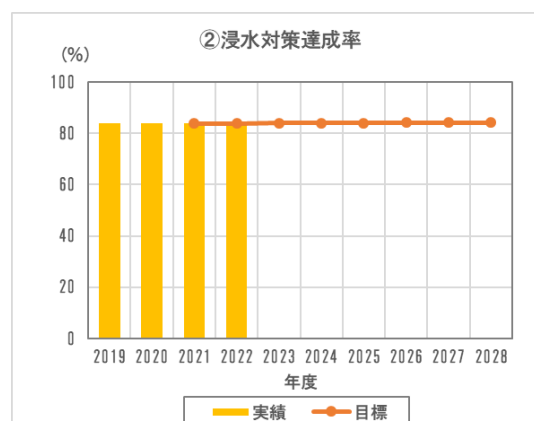
Do

- ・市民団体と連携しグリーンカーテン用のゴーヤの苗の育成・配布を行った。また、公共施設（保育園等）にてグリーンカーテンを作り、身近な暮らしの中でできる環境配慮行動を実施した。



- ・歩道における透水性舗装の整備を市道中央天津線（産業道路より東側）及び市道昆陽車塚線で実施した。

Check



②浸水対策達成率は、2022 年度の単年度目標を達成した。

■2023 年度以降の主な取組

Action

- ・気候変動への適応策のうち熱中症予防について、兵庫県及び関係機関と連携して、熱中症予防の周知・啓発に努める。また、各種救急講習、市ホームページ、広報伊丹、FM いたみ及びリーフレット等の各媒体を利用し普及啓発活動を実施する。
- ・避難所となる学校体育館の環境改善を図るため、発災時でも 3 日間の自立運転が可能な「空調設備」をモデル事業として 1 校の整備を行う。

基本目標2

資源が循環する環境に配慮したまち

■成果指標の進捗状況

成果指標	参考 (2019年度)	指標の 性質※	2022年度 実績	目標 (2028年度)
① 発生抑制率	4.9%	↑	9.2%	10.9%
② 資源化率	17.5%	↑	17.6%	18.6%
③ 最終処分量(埋立量)	7,020t	↓	6,569t	6,719t

※指標の性質において、↑は実績値が目標値を上回ることが望ましい項目、→は実績値を維持することが望ましい項目、↓は実績値が目標値を下回ることが望ましい項目を意味する。

施策の方向性③ 廃棄物の発生抑制・再使用等の推進

■2022年度の主な取組

Do

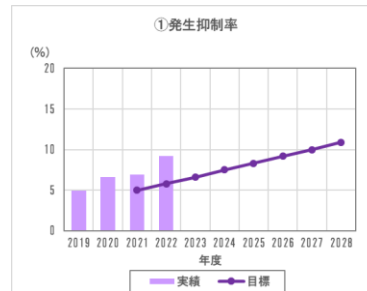
- ・まちづくり出前講座や環境学習を通じて燃やすごみに混入している雑多な紙のリサイクル、生ごみの水切り等に向けた啓発活動に取り組んだ。



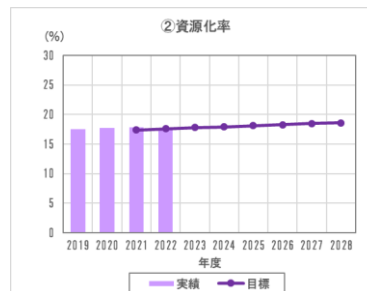
- ・プラスチックごみの減量のため、給水スポットを新たに伊丹スカイパーク、緑ヶ丘体育館、伊丹スポーツセンター、市役所庁舎の4箇所に設置した。また、ケーブルテレビやFMいたみを通じて給水スポットのPR活動に取り組んだ。



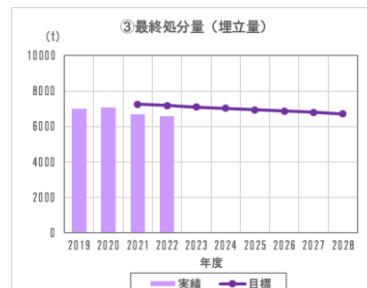
Check



①発生抑制率は、増加傾向にあり、2022年度の単年度目標を達成した。



②資源化率は、緩やかな増加傾向にあり、2022年度の単年度目標を達成した。



③最終処分量(埋立量)は、緩やかな減少傾向にあり、2022年度の単年度目標を達成した。

■2023 年度以降の主な取組

Action

- ・使用済小型家電回収ボックス及び水銀使用廃製品回収ボックスを 2023 年 4 月より 3 箇所増設し、ごみ収集時やごみ処理施設の処理工程において火災原因となる充電式電池等を排出しやすい環境を整備する。
- ・伊丹市と包括連携協定を締結しているイオン株式会社と協働で環境対策としてマイボトルの普及啓発に向けた取り組みを実施する。

施策の方向性④ 食品ロスの削減（重点プロジェクト）

■2022 年度の主な取組

Do

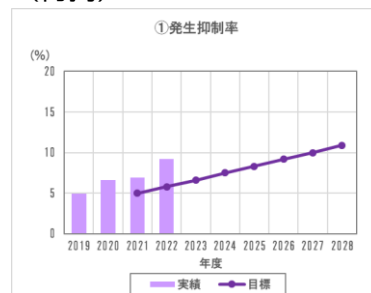
- ・新たに拠点回収場所を 2 カ所増設し、拠点回収におけるフードドライブ事業を推進した。



- ・市民団体が活動してきたフードドライブの実績やノウハウを生かしたマニュアルを協働して作成・公開し、食品ロス削減に関する市民・事業者の主体的な取組のすそ野を広げた。

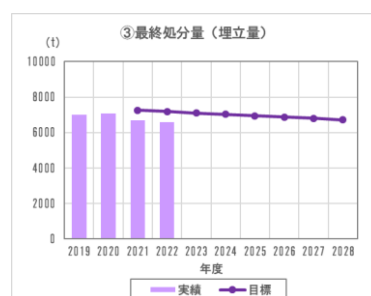
Check

（再掲）



①発生抑制率は、増加傾向にあり、2022 年度の単年度目標を達成した。

（再掲）



③最終処分量（埋立量）は、緩やかな減少傾向にあり、2022 年度の単年度目標を達成した。

■2023 年度以降の主な取組

Action

- ・食品ロス削減に取り組む飲食店を広報伊丹、ホームページ等を通じ広く紹介する。また、スーパー等と連携した「てまえどり」アピール活動を実施し、食品ロス削減を推進する。
- ・市内 11 箇所の拠点回収におけるフードドライブ事業を推進する。市民団体が活動してきたフードドライブの実績やノウハウを生かしたマニュアルを公開し、フードドライブを主体的に行う事業者については、広報活動等で支援を行う。

基本目標 3

自然環境と共生し生物多様性が保全されるまち

■成果指標の進捗状況

成果指標	参考 (2019年度)	指標の 性質※	2022年度 実績	目標 (2028年度)
① みどりに対する市民満足度	—%	↑	—	80.0%
② 在来生物の種類数	188種	↑	196種	193種
③ 自然緑化活動等に参加している団体数・参加人数	125団体、 494人	↑	124団体、 391人	125団体、 700人

※指標の性質において、↑は実績値が目標値を上回ることが望ましい項目、→は実績値を維持することが望ましい項目、↓は実績値が目標値を下回ることが望ましい項目を意味する。

施策の方向性⑤ みどりの充実

■2022年度の主な取組

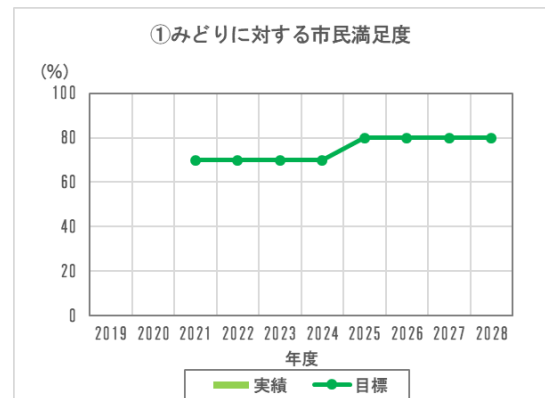
Do

- ・複合遊具の選定を地元自治会に依頼するなど、地域のニーズを反映してあぜみち公園他4公園の再整備を実施した。



- ・指定管理者による施設の適切な管理・運営を実施し、公園利用者の高い満足度を維持した。

Check



- ①みどりに対する市民満足度は、今後実施予定の市民意識調査結果により評価する。

■2023年度以降の主な取組

Action

- ・街区公園維持管理協定等により地域住民との協働による公園の維持管理を実施する。
- ・市民協働による地域産苗木や在来植物の栽培や植栽、維持管理を実施する。

施策の方向性⑥ 生物多様性の保全

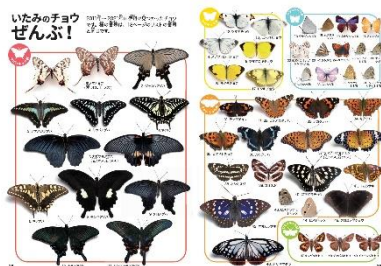
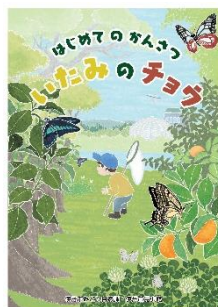
■2022 年度の主な取組

Do

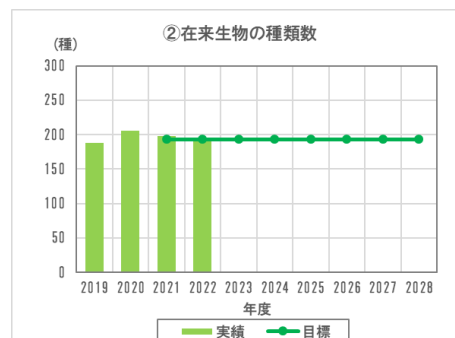
- ・瑞ヶ池公園内にある猪名の笹原モデル園において、市民協働による育成管理に努めるとともに、新たに整備された今池緑地の一部区域にも猪名の笹原に由来する植物を植栽した。



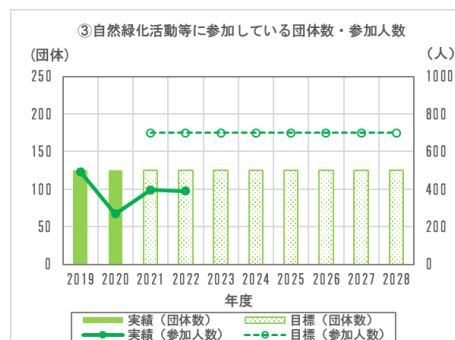
- ・伊丹のチョウ類の調査結果等を活用し、チョウに関する子ども向けの冊子「はじめてのかんさついたみのチョウ」を作成・市内小学校に配布した。



Check



②在来生物の種類数は、市民団体による自然環境保全活動や調査活動の結果により、2022年度の単年度目標を達成した。



③自然緑化活動等に参加している団体数及び参加人数は、高齢化等による後継者不足や新型コロナウイルス感染症の影響で2022年度の単年度目標を達成できなかった。

■2023 年度以降の主な取組

Action

- ・昆陽池公園をはじめ、生物多様性ネットワークの拠点となる公園緑地において、生物多様性の保全・再生に取り組む。
- ・昆陽池公園等での貴重種の保全活動を継続するとともに、観察会などを開催することで市民啓発に努め、生物多様性の関心を高める。

基本目標4

良質な都市空間の整備と生活環境が保全されるまち

■成果指標の進捗状況

成果指標	参考 (2019年度)	指標の 性質※	2022年度 実績	目標 (2028年度)
① 環境基準達成率（水質(BOD)）	100%	→	100%	100%
② 地域清掃活動支援件数	771件	↑	726件	1,100件
③ 景観に対する市民満足度	79.9%	↑	—	80%
④ 交通ネットワークに対する市民満足度	72.4%	↑	—	73%

※指標の性質において、↑は実績値が目標値を上回ることが望ましい項目、→は実績値を維持することが望ましい項目、↓は実績値が目標値を下回ることが望ましい項目を意味する。

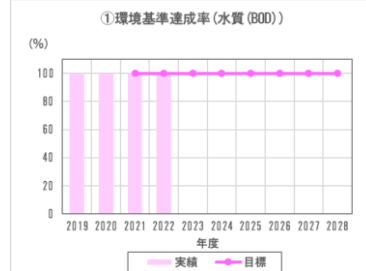
施策の方向性⑦ 生活環境の保全

■2022年度の主な取組

Do

- ・水質、騒音・振動調査及び大気汚染状況、航空機騒音の常時監視の実施による生活環境の保全を図り、その調査結果をホームページにて公表した。

Check



①環境基準達成率（水質(BOD)）は、100%を維持しており、2022年度の単年度目標を達成した。

■2023年度以降の主な取組

Action

- ・引き続き、水質、騒音・振動調査及び大気汚染状況、航空機騒音の継続した測定と監視を実施し、調査結果をホームページにて公表する。

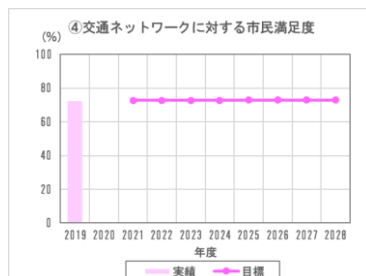
施策の方向性⑨ 安全で快適な道路空間の整備

■2022年度の主な取組

Do

- ・2021年度に行った通学路一斉点検において抽出された危険箇所に対し、注意喚起看板（主に電柱幕）の取り付けを行った。

Check



④交通ネットワークに対する市民満足度は、今後実施予定の市民意識調査結果により評価する。

■2023年度以降の主な取組

Action

- ・危険箇所に対し、現場確認の上、注意喚起看板（主に電柱幕）を適宜取り付ける。

施策の方向性⑧ 良質な都市空間と住環境の形成

■2022 年度の主な取組

Do

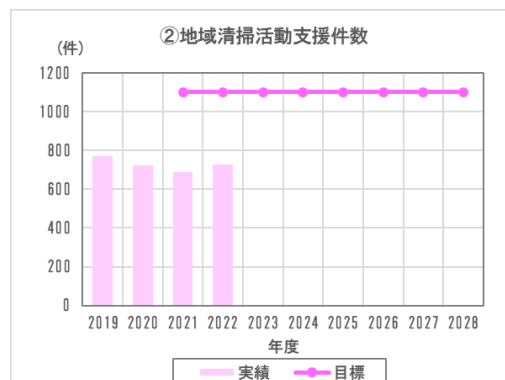
- ・伊丹市環境部連絡会と連携して、11 月に
ぼい捨て追放キャンペーンを実施した。



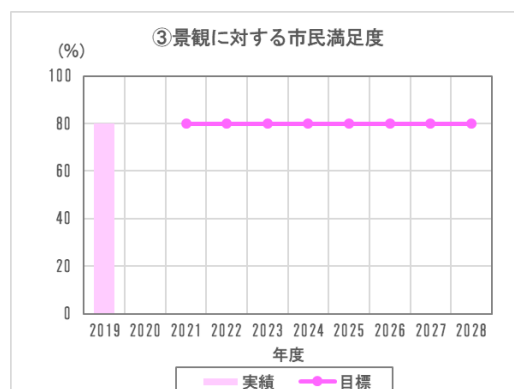
- ・伊丹酒蔵通り協議会主催「まち灯りと鳴く
虫」のイベントを支援した。



Check



②地域清掃活動支援件数は、新型コロナウイルス感染症流行により減少していた件数が戻りつつあるが、2022 年度の単年度目標を達成できなかった。



③景観に対する市民満足度は、今後実施予定の市民意識調査結果により評価する。

■2023 年度以降の主な取組

Action

- ・地域清掃に取り組む団体数の増加のため、自治会等への周知に努めるとともに、地域清掃活動に対して支援する。
- ・引き続き、広報伊丹による景観の意識啓発を図る。また、景観まちづくり団体による活動に対して支援する。

基本目標5

環境意識と協働の輪が広がるまち

■成果指標の進捗状況

成果指標	参考 (2019年度)	指標の 性質※	2022年度 実績	目標 (2028年度)
① 環境イベント・講座等に参加した人数	4,969人	↑	15,611人	5,250人
② 緑化や自然保護活動に参加した市民の割合	-%	↑	-	10.0%

※指標の性質において、↑は実績値が目標値を上回ることが望ましい項目、→は実績値を維持することが望ましい項目、↓は実績値が目標値を下回ることが望ましい項目を意味する。

施策の方向性⑩ 多様な主体が連携協力する体制の推進(重点プロジェクト)

■2022年度の主な取組

Do

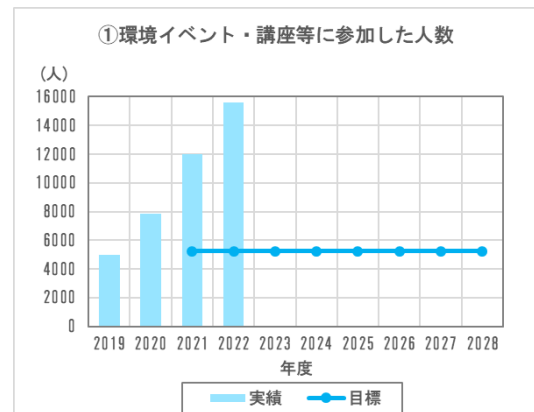
- ・「花と緑のまちづくり市民サポーター養成講座」「伊丹生きものマイスター講座」等を実施し、環境活動を推進する人材の育成を行った。



- ・伊丹市が市民団体と共催している「アースデイいたみ」を開催した。250名が参加し、市民団体と市民のネットワーク化を図った。



Check



- ①環境イベント・講座等に参加した人数は、増加傾向にあり、新規イベントの開催等により、2022年度の単年度目標を達成した。

- ・太陽光パネル及び蓄電池設備の共同購入支援事業で連携自治体を拡大させ、協力体制の推進を図った。また、市と市内事業者が連携した再エネ電力の共同調達事業を開始し、事業者と新たな連携を試みた。



■2023 年度以降の主な取組

Action

- ・こども文化科学館でのプラネタリウム投影や企画展だけでなく、出張観望会や Web 活用等でより幅広く市内の子どもたちのための教育普及活動に取り組む。
- ・脱炭素社会の実現に向けて、市民が身近なことから取り組める COOL CHOICE(賢い選択)の取組を、ゼロカーボンシティ宣言の取組と位置付けて、市内集客施設における体験型イベントを多様な事業者等と連携して実施する。

施策の方向性⑪ 環境教育・環境学習の推進

■2022 年度の主な取組

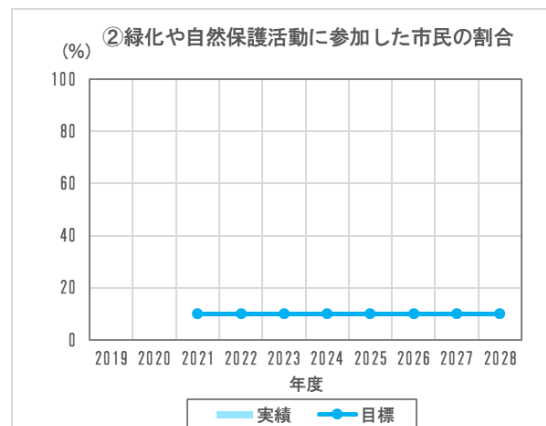
Do

- ・地域のボランティアガイドを招き、環境体験学習を実施した。



- ・市内の小中学生を対象に環境問題に関するポスター・標語の募集を行った。
(応募件数:ポスター2,156件、標語927件)

Check



②緑化や自然保護活動に参加した市民の割合は今後実施予定の市民意識調査結果により評価する。

■2023 年度以降の主な取組

Action

- ・就学前施設での日々の園生活の中で、子どもと職員が節電・節水、リサイクル活動などを通じて環境に対する意識を向上する。出前講座等を利用し、子ども達とともに環境を考える機会を設ける。
- ・学校等を通じて環境ポスター・標語の募集を実施する。

参考指標の進捗状況

基本目標	施策の方向性	参考指標
【気候変動】 気候変動に対応するまち	①気候変動の緩和策	市域からの温室効果ガス排出量（推計値）（t-CO ₂ ）
		エネルギー消費原単位の低減（％）
		公用車における低公害車の導入割合（％）
		伊丹市営バス利用者数（人）
	伊丹市営バス利用者数／総軽油使用量（人/L）	
	②気候変動の適応策	透水性舗装面積（m ² ）
【循環型社会】 資源が循環する環境に配慮したまち	③廃棄物の発生抑制・再利用等の推進	一人一日当たり家庭系ごみ排出量（g/人・日）
		家庭系ごみ資源化率（％）
		ダンボールコンポストの実施者数（人）
		再生資源集団回収登録団体数（団体）
	事業系ごみ排出量（t）	
	④食品ロスの削減	事業所指導・啓発回数（回）
【自然共生 ・生物多様性】 自然環境と共生し生物多様性が保全されるまち	⑤みどりの充実	家庭系食品ロスの廃棄量（推計値）（t）
		公園に対する市民満足度（％）
	⑥生物多様性の保全	市域面積に対する永続性のある緑地面積の割合（％）
		生物多様性の認知度（％）
		昆虫館の来館者数（人）
		カラスの個体数（％）
【都市環境】 良好な都市空間の整備と生活環境が保全されるまち	⑦生活環境の保全	大気・騒音の環境基準達成率（％）
	⑧良質な都市空間と住環境の形成	農地面積（ha）
		都市計画道路の整備率（％）
	⑨安全で快適な道路空間の整備	自転車レーン等整備区間延長（km）
		自転車駐車場利用台数（台）
		放置自転車等台数（台）
		交通安全教室の参加者数（人）
【人づくり】 環境意識と協働の輪が広がるまち	⑩多様な主体が連携協力する体制の推進	こども文化科学館来館者数（人）
	⑪環境教育・環境学習の推進	環境体験学習の年間実施回数（回）
		環境教育実施園割合（％）
		環境ポスター・標語の応募割合（％）

指標の性質	2019 年度実績	2020 年度実績	2021 年度実績	2022 年度実績
↓	—	—	—	—
	(市長部局) 100.0	99.50	105.07	105.28
	(上下水道局) 100.0	99.40	99.10	98.11
↓	(病院) 100.0	99.40	100.29	104.21
	(教育委員会) 100.0	105.60	113.10	110.72
→	4.96	4.96	5.32	8.13
↑	15,270,010	13,289,115	11,908,605	12,633,291
↑	9.7	9.5	8.5	9.0
↑	115,308	118,902	123,277	123,369
↓	561	566	563	546
↑	26.5	26.3	26.6	26.4
↑	54	58	90	64
↑	316	314	298	292
↓	22,534.92	21,214.03	21,268.56	21,108.29
↑	62	73	70	54
↓	3,331	—	—	2,909
↑	65.7	—	—	—
→	19	18.9	18.9	18.9
↑	29.9	—	—	—
↑	134,920	94,411	123,872	142,394
↓	54	46	58	64
→	(大気) 100	100	100	100
↑	(騒音) 83	90	87	82
→	115.87	113.07	110.10	107.54
↑	88.1	88.2	88.6	88.8
↑	4.4	5.2	5.6	5.8
→	6,865	5,850	5,999	6,370
↓	991	599	473	626
↑	6,258	3,949	4,322	4,716
→	47,526	23,186	45,252	55,987
→	3	1	3	3
→	100	100	100	100
↑	22	9.5	16.6	18.8



伊丹市マスコット たみまる

itami